

## 業界から一言

### 製造業

夏物製品苦戦、長梅雨、原材料高、原油価格高騰の影響しわり、今後への期待は？

●梅雨明けが遅れた影響により冷やし中華やひやむぎなどの夏物商品の売上は予測以下。冬物商品に変わっていく時期であるが、茹で時間が長く、原油高に伴う経費増を懸念。(食品料品製造)

●傘の生産について、天候不順の影響から夏物(晴雨兼用)の販売量が少なく、小売店からの返品が多い。しかし、韓国製品の一部では原材料等の値上げを品質を落とすことにより対応したため信用を失い、日本に注文が戻っている明るい話題もある。(繊維工業)

●秋・冬物の生産がスタートし忙しい状態、しかしニット製品の原料となる糸を染色する際のコストが急騰(繊維製品製造)

●秋以降の新商品投入のための試作、打合せが多く準備に追われている。しかし、原材料であるニツケルの相場が上昇しておりステンレスの価格が上昇、また輸送に伴う経費も増加している。(金属製品製造業)

### 非製造業

●売上高減少、収益確保が厳しい地方経済浮き彫りに！

●長梅雨から猛暑に変化した気候の影響により夏物衣料・繊維製品の売上に悪影響。衣料メーカーは、夏物在庫の消化の為に不利な条件での取引を余儀なくされている。小売店の資金が循環せず、秋物商品の仕入れに影響が出ている。(繊維・衣料卸売業)

●地金その他の材料が急激に高騰し、商品価格も高騰、消費者は買い控えており、売上高が減少(貴金属卸売業)

●例年8月はお盆を当てに仕入増となるはずが、荷受けに支払った代払い金は昨年度と対比して26%減少。お盆中に店舗を閉めている小売店が多かった。(飲食料品小売業)

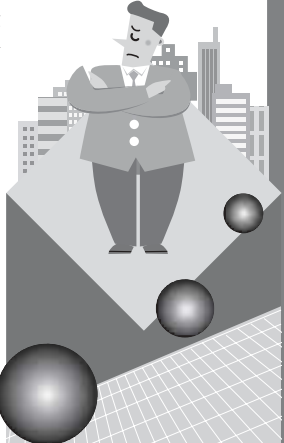
●業界の売上高を下支えしているプラズマ・液晶テレビ、冷蔵庫、洗濯乾燥機等の売価が量販店を中心に下落しており、販売数量では増えているものの金額面の売上が低下している。

●公共工事の予算削減が続いており、建設業界は厳しい状況が今後も続く予想される。また、原油価格の高騰に伴い、砂利・砂アスファルト等の生産費、運賃等が値上がりし、生コン、コンクリート二次製品の価格への転嫁要請が納入業者から出ているが、建設業界全体の市況が悪いため、値上げには至っていない。(総合建設業)

●コンパネの価格が昨年度比50%高騰、バルブ、水栓、継手などの青銅製品が10%程度値上がり、電線・ケーブルの価格が前年度比300~350%上昇(職別工事業)

### トピックス

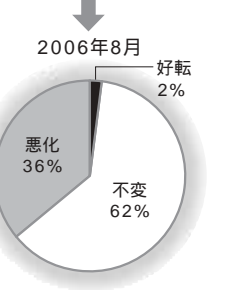
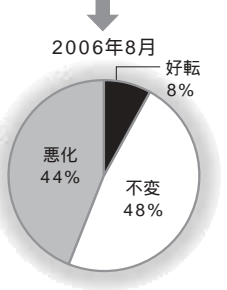
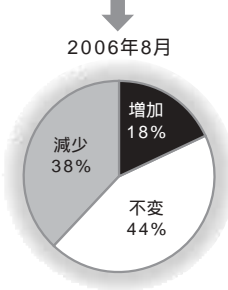
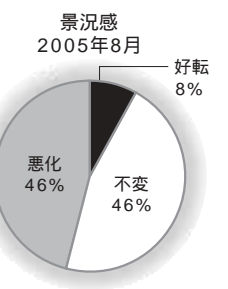
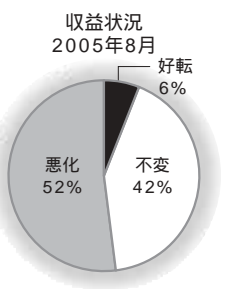
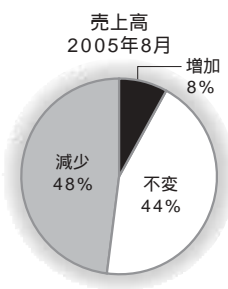
●同業種内でも暗くつきり同業種・同分野内において、好不調の格差が広がっている。



山梨県中小企業団体中央会  
情報連絡員報告  
(平成18年8月分)

# データから見た 業界の動き

前年同月比の各業界のD I値は極端に悪化した前月に比べ「製造業」では売上の20ポイント回復を筆頭に、収益、景況感共に持ち直しの動き。  
「非製造業」においては売上のD I値こそ前月と変わらないが、業界の景況感が10ポイント、収益についても3.3ポイント回復し、全般的には回復の動きが見えつつある。  
しかし、長引く原材料や原油価格高騰の影響を受け、ほとんどの業界で、収益性の悪化を訴えるコメントが多く、先行きの不透明感からか景気的好転マインドを減退させている。



顕著な例として、宿泊業では「8月期はファミリー層が多く、歴代一位を記録する好転、例年に比べ客数が30%増加とコメントするところ、  
「良い天候が長続きせず、や」と昨年を上回る収入、「新規参入の大型ビジネスホテルの影響を受け、販売価格が低下傾向」また、「独自の販路開拓により収益を伸ばすホテルもあるが、パラスキが大きい」などの意見もあり格差が大いことが伺える。  
自動車関連では、「高価格帯の車両及び特に軽自動車の売れ行きが順調」と回答する小売分野であるが、整備業では「車検整備需要及び在庫台数は昨年度とあまり変わらないが、在庫車両の小量化が進み、さらに異業種参入に伴う価格競争の激化など車検整備単価が下落、収益状況が悪化している」と厳しい状況が報告されている。  
また、原油価格高騰の影響を直接受けている運送業においても、「販売価格への転嫁を行わないと収益は食い止められない」とコメントするバス業界と「燃料の高騰による厳しさが続いているが、昨年に比べサツカーJ1の試合が増えたため、県外者の利用が増え、売上上昇」とコメントするタクシー業界と、明暗がくつきり分かれている。